設楽発掘通信
No.22
平成２８年
９月号

滝瀬遺跡の地元説明会を開催しました。

先だって八月十一日の山の日に、設楽町八橋字タキセに所在する滝瀬遺跡の地元説明会を開催いたしました。

滝瀬遺跡の調査は昨年度から行っており、本年度は五五二〇平方メートルの発掘調査を予定しています。今回の説明会で皆様にお見せすることができたのは、昨年度調査区の北東側にあたる16Ａ区です。

今回の調査で見つかった遺構は、石囲炉をもつ縄文時代中期後半（今から約四八〇〇～四四〇〇年前）の竪穴建物跡と土器溜まり、縄文時代後期前葉～中葉（今から約四〇〇～三八〇〇年前）の遺物包含層・配石遺構・炉跡・袋状土坑（貯蔵穴）、縄文時代中期～後期の土器埋設遺構（埋甕）と集石土坑、かつての伊那街道と考えられる近世以降の道路状遺構があります。なかでも縄文時代後期の配石遺構は建物跡の可能性もあり、特に注目されるものです。

おかげさまをもちまして、地元説明会の当日はお天気も良く、八六名もの方々に遺跡をご覧いただくことができました。ここに深く感謝いたします。

なお、滝瀬遺跡はこれからも16Ｂ区の調査がございます。また、今月からは川向地区の大栗遺跡、十月からは大名倉地区にある西地・東地遺跡の調査も始まります。これらの遺跡につきましても、何らかのかたちで皆様への情報公開を進めて行きたいと考えておりますので、今後とも私どもの発掘調査へのご理解・ご協力を引き続きお願い申し上げます。

（愛知県埋蔵文化財センター　樋上昇）

出土遺物

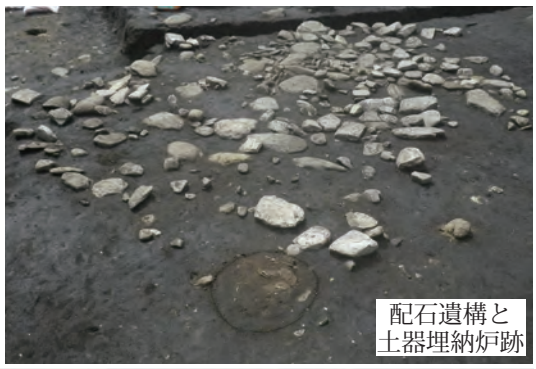
配石遺構と
土器埋納炉跡

写真１　滝瀬遺跡 地元説明会の様子
（当日配付資料は愛知埋文 HP からダウンロードできます）

川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡の発掘調査は、暑かった夏が終わると共に終了しました。

下の写真には、尖頭器以外の主な出土遺物を掲載しました（写真２）。①は後期旧石器時代（約一万八千年前）の細石核（細石刃を作るための母材）、⑨～⑪は細石刃（細長く剥離したものを骨角などに溝を彫り、そこにたくさん埋め込んで槍先などとして使用）、②～⑤と⑫は石核（石器を作る時に原石から剥片を打ち欠いて残った部分）、⑥と⑧は叩き石（手に直接にぎって槌として使った石器）、⑦は縄文時代後期から晩期（約四千四百年前～約二千八百年前）に作られた石錘（おもり）、⑬～⑮は縄文時代中期（約五千五百年前から約四千四百年前）に作られた石鏃（やじり）です。

当遺跡は後期旧石器時代から縄文時代晩期まで人々が生活や狩猟を行っていた事や、①、②、⑩～⑫、⑭の石材が遠隔地（恐らく長野県）から運び込まれた黒曜石である事などが判明しました。

（安西工業株式会社　坂口尚人）

滝瀬遺跡の発掘調査

滝瀬遺跡では、八月十一日に地元説明会を行い、おかげさまで多くの方に来ていただきました。説明会では、A区（調査区東側）の遺構をお見せしました。主な遺構は、前号でもお伝えした竪穴建物跡の可能性もある配石遺構などでした（写真３）。また、道路状の遺構もお見せしました（写真４）。これは、調査区の北側を通る伊那街道（県道十号線）の前身となる道路と考えられます。調査前には、A区の中央部あたりに境川を渡り北に延びる形の畦道が残されていました。道路状遺構が見つかったのはほぼその真下にあたる部分で、以前の道路は北東に延びていたと考えられます。この場所には、明治十八年に書かれた地籍図にも同様の形の道路が描かれています。ちなみに、設楽発掘通信十九号でお伝えした落書き石はこの畦道の脇にありました。

滝瀬遺跡の調査は、これから後半戦となります。今後の調査で遺跡がどのような広がりを見せるか、どうぞご期待ください。

（安西工業株式会社　岩瀬大輔）

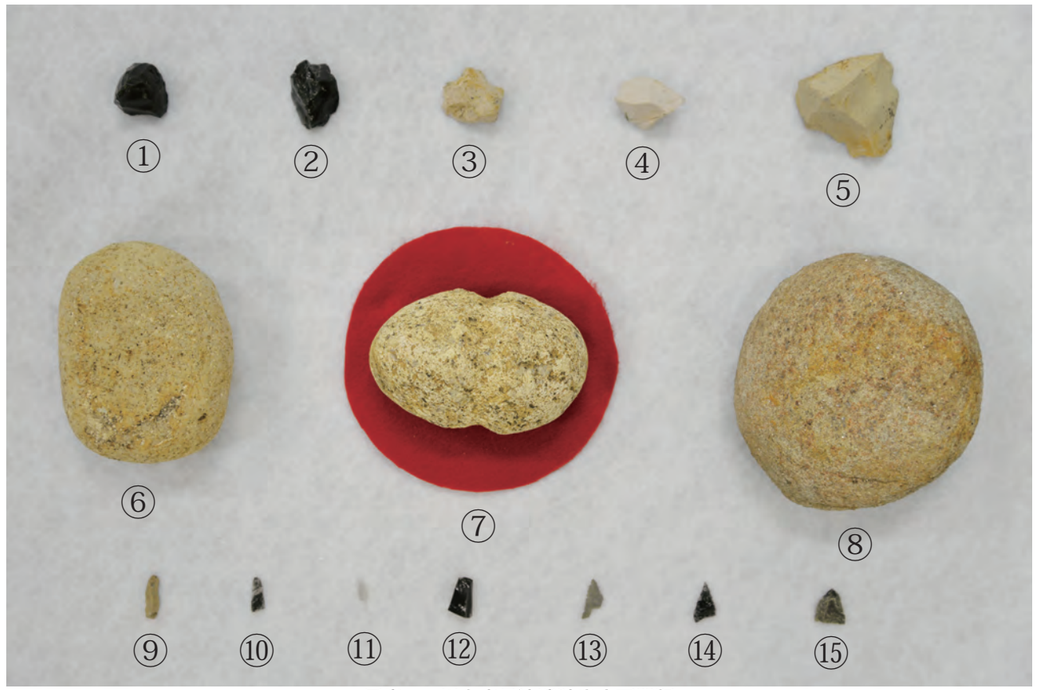

写真２　川向東貝津遺跡出土石器類

写真３　滝瀬遺跡 配石遺構（南より）

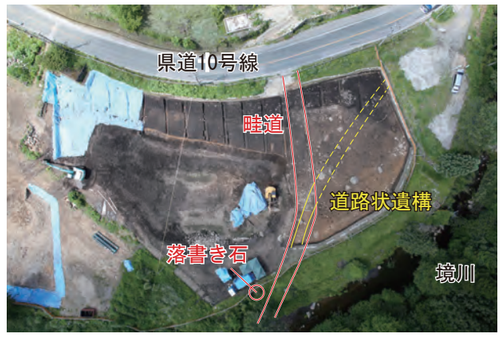

写真４　滝瀬遺跡 調査区全景（上が北）

範囲確認調査

川向地区で行っていた川向近沢遺跡、下延坂遺跡の範囲確認調査が完了しました。上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は九月中完了を目指して調査を行っています。引き続き、川向地区の石原遺跡、大名倉地区の胡桃窪遺跡の調査を行っています。今回は本調査の地元説明会のように、あまり調査の様子を現地でご案内する機会が少ない、範囲確認調査の手順を紹介したいと思います。

①トレンチ設定（写真５A）　トレンチは１×２ｍを基本に設定します。場所によっては３×30ｍのように大きなトレンチを設定することもあります。

②機械掘削（写真５B）　遺構面か地山まで重機で掘削します。人力で掘削を行うこともあります。

③平面記録（写真５C）　遺構面か地山に達したところで清掃を行い、記録写真撮影と平面図作成を行います。

④断面記録（写真５D）　同じく断面も清掃を行い、記録写真撮影と断面図作成を行います。

⑤測量（写真５E）　現場での平面図・断面図作成には電子平板を使用します。

⑥埋め戻し（写真５F）　記録作業の終わったトレンチはすぐに埋め戻します。

範囲確認調査は本調査とは異なり、遺跡の範囲全体に間隔をあけて設定したトレンチを次々と調査します。遺物が大量に出土し、遺構も多く検出できるトレンチもあれば、遺物も遺構も見つからないトレンチもあります。様々な状況のトレンチの調査成果を隣り合ったトレンチ同士で比較検討することによって、遺跡全体の様相を類推し、遺跡の広がる範囲を確定します。

（安西工業株式会社　入江剛弘）

写真５　範囲確認調査の手順（永江沢遺跡）

愛知県埋蔵文化財センターのイベントご案内

少しづつ秋らしくなってきました。今回は愛知県埋蔵文化財センターによる秋のイベントをご案内します。

●『バックヤードツアーと考古学体験』

☆埋蔵文化財センターの施設内部をご案内します。発掘調査とは異なる仕事ぶりをご覧下さい。

開催日：十月十四日（金）・十一月十一日（金）
時　間：いずれも午前十時から
場　所：愛知県埋蔵文化財調査センター二階　研修室集合

●連続歴史講座『祈りと祭りの考古学』

☆祈りと祭りに関するの考古学的な情報について五人の講師が解説します。

時　間：午後一時から三時
会　場：愛知県埋蔵文化財調査センター二階研修室

- **九月　二十四日（土）　「縄文のいのり」　川添和暁**
- **十月　八日（土）　「弥生の農耕祭祀」　永井宏幸**
- **十月　二十二日（土）　「古墳のまつり」　早野浩二**
- **十一月　五日（土）　「古代のまじない」　池本正明**
- **十一月　十九日（土）　「戦国の呪術」　鈴木正貴**

●考古学セミナー「愛知の考古学２０１６」

☆愛知県内外の考古学に関係する成果を広く一般県民に公開するための報告会を開催します。設楽ダム関連の発掘調査の成果も展示する予定です。

【主催】愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室
【協力】名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所

開催日：十一月二十六日（土）　午後一時から午後四時三十分
十一月二十七日（日）　午前十時から午後四時
会　場：名古屋市博物館 展示説明室・地下講堂

＊いずれのイベントも**予約不要・参加費無料**です。詳しくは愛知県埋蔵文化財センターのホームページまで。

（愛知県埋蔵文化財センター　早野浩二）

写真６　昨年度のイベントの様子
上：バックヤードツアー
（平成 27 年 8 月実施）
下：考古学セミナーでの設楽ダム関連調査 展示ブース
（平成 27 年 11 月実施）

設楽発掘通信

No.22
平成２８年９月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒４９８-００１７　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４
電話　（０５６７）６７-４１６１【管理課】　４１６３【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　安西工業株式会社